

まちづくり懇談会 総合計画の基本的な考え方 説明内容

令和 7 年 2 月 17 日～21 日

- ・次期総合計画に関する基本的な考え方について、資料 1 に基づいて説明。
- ・初めに、昨年の 8 月から 9 月にかけて実施したアンケート調査について説明。

(2 ページ参照)

- ・アンケートは、市内全域の満 18 歳以上の市民から「地区」「性別」「年齢階層」等の割合が同じようになるように 1,600 人を抽出して行い、回答率は 43.6%であった。

(3 ページ参照)

- ・士別市への愛着については、約 7 割の方が「ある」と回答しており、年齢が上がるほど割合が高くなっている。最も高いのが 10 代の 9 割である反面、20 代が最も低い 5 割に留る結果である。
- ・士別への定住意識については、6 割以上の方が市内での居住を希望しており、こちらも年齢が上がるほど割合が高くなる傾向が見られる。

(4 ページ参照)

- ・将来に残すべき本市の魅力や特色については、「医療や介護施設が整い健康で安心して暮らせるまち」を選択した方が最も多く、10 代と 40 代以上の世代で 2 位に 20%以上の差を付けている。
- ・次いで、「働く場所が確保された豊かなまち」「子どもがのびのびと成長できる子育て環境が整ったまち」が続いており、働く場所は全世代で満遍なく、子育て環境は 20 代と 30 代でトップとなるなど、世代ごとの特色が現れている。

(5 ページ参照)

- ・今回初めて実施した、幸福度に関する調査結果である。平均は 6.677 点で、全国平均の 6.5、北海道の平均の 6.6 と概ね同様の結果となった。
- ・幸福度は都市部の方が高めに出る傾向があることから、良好な結果だったと考えている。
- ・一方で、5 年後の幸福度は 5.952 であり、全国平均の 6.4、全道平均の 6.5 と比較して低い結果となった。年齢層が高いほど落ち方が大きいことから、加齢等による不安が影響を及ぼしたと推認される。

(6～7 ページ参照)

- ・この表は、施策への満足度が高い順に並べたもの。予防接種や健康支援、上下水道の安定利用、ごみ収集などが高く評価されている一方で、中小企業への支援や雇用などの経済分野や公共交通、市立病院の診療体制などに不満を持たれている方が多い結果となっ

た。また、除排雪については、満足されている方も不満に思っている方も多い結果となった。

- ・次に、新しい人口ビジョンについて説明。

(8 ページ参照)

- ・オレンジの線は国の調査期間が 2013 年に公表した推計値を、黒い線が 2023 年に公表した人口推計値を表している。
- ・直近の国勢調査が行われた 2020 年を見ると、予想では 18,772 人であったのに対し実際は 17,858 人と、想定より人口減少が進んでいる。

(9～10 ページ参照)

- ・表は、各地区ごとの将来人口を本市独自で作成したもの。住民基本台帳をベースとしているため、国の数値とは一致しない。

(11 ページ参照)

- ・新たな人口推計の考え方を示す。人口減少に対し、出生数の確保、転出の抑制、転入者の増加の 3 つの視点から、改善を図る。
 - ・本市の合計特殊出生率は、現状、国・北海道を上回っていることから、出産適齢の女性が減少していることが出生数が減少している要因と推察できる。
 - ・日本の場合、生まれてくる子のほぼ全てが、婚姻した夫婦間に生まれる子であることを踏まえると、近年の未婚化、晩婚化による影響も大きいといえる。
 - ・子どもの数については、これまで合計特殊出生率の向上を目標値に設定していたが、市が独自に計算できないことから、「子ども女性比」を用いている。
 - ・転出については、特に、若い女性の転出が目立ち、15 歳から 19 歳の女性については、5 人に 2 人が 5 年以内に士別を離れているのが現状。士別を離れる理由の多くは進学や就職などと推察できるため、学校卒業後も本市に定住できる環境づくりが必要である。
 - ・転入者の増加については、現在、移住ナビデスクによる情報発信を始め、地域おこし協力隊やお試し移住など様々な施策に取り組んでおり、少しずつ効果が現れている。
 - ・本市に移住、定住していただくためには、まずは士別市を知ってもらうことが必要であり、本市を訪れ、実際に生活していただくなかで本市の魅力に触れてもらう機会を整える取り組みを進める。
 - ・これらの取り組みを進めることで、国の推計人口から 7%改善された 8,600 人を 2050 年における人口目標とし、次期総合計画の最終年となる 2033 年に 13,200 人をキープすることをめざして、計画を策定する。
- ・最後に、次期まちづくり総合計画の考え方について説明する。

(12 ページ参照)

- ・基本構造は、現計画と同じ「基本構想」「基本計画」「実行計画」からなる 3 階構造とす

る。このうち「めざす都市像」「ありたい姿」「人口ビジョン」については、2050 年を見据えた長期ビジョンとする。

- ・「ありたい姿」については、アンケート調査やワークショップ、まちづくり懇談会などで出された意見を参考に、未来に引き継ぐ本市の魅力や特色を選定する。
- ・現在、別冊となっている「地区別計画」については、区域別に分かれている計画を一本化したうえで、基本計画の一つに格上げし、本編に取り入れる。なお、これにあたり現在の地区別計画の検証を行うが、地域でのワークショップなど、希望がありましたら後ほどお聞かせ願いたい。
- ・また、令和 8 年度までを計画期間とする「第 2 期_士別市まち・ひと・しごと創生総合戦略」について、計画期間を 1 年前倒し、次期総合計画に包含することとする。
- ・人口減少が避けられないなか、引き続き難しい市政運営が予想されるが、高校生のワークショップや小中学生の未来提案シートで出された夢のある未来をめざし、計画作りを進めていきたい。皆さまからも未来に向けてこうして欲しい、こうなればいいなど様々ご意見を頂ければと思う。